

2017年(平成29年)9月23日(土曜日)

1頁

(第3種郵便物認可)



野菜に水やりをする荒田さん(右)ら(柏市で)

障害者農園でいきいき

柏に開園 企業の雇用促進に力

障害者雇用の受け皿となる農園「わーくはびねず農園 柏ファーム」が今月、

柏市藤ヶ谷新田に開園した。障害者の雇用拡大に取り組む運営会社が企業にピニールハウスを利用してもらい、そこで雇用される障害者に働いてもらう仕組みだ。法律で定められた障害者雇用率の達成が難しい企業などで利用が広がっている。

雇用率 全国下回る

県は、県内16か所にある障害者就業・生活支援センターに、企業の相談を受ける企業支援員を配置。2011年度からは、障害者を雇う職場の見学会開催を委託している。

千葉労働局によると、昨年6月現在、県内に本社を構える労働者50人以上の企業の障害者雇用率は1.86%で、全国平均の1.92%を下回っている。同局は「一般の業務から、障害者が担える業務を切り出し、求人するまで時間がかかっている」と分析している。

障害者雇用促進法では、企業に従業員の2%で障害者の雇用を求めている。だが、厚生労働省によると、2016年6月時点で、全国の50人以上が働く企業で、この法定雇用率を達成した企業は全体の48.8%にとどまっている。

新たに開園した柏ファームは広さ約2.6㏊。ピニールハウス24棟分のスペースで農作物を栽培。県内や東京都内のメーカー、コンサルティング会社など6社が雇う知的障害者ら26人が働く。

収穫される野菜は、小松菜やチンゲンサイ、トマト、ナスなど約40種類。雇用企業の社食などで使われるという。農園で働く荒田篤さん(41)は「農業は楽しい。以前の職場よりも給料が高くて満足」と話す。柏ファームでは、11月末までに8棟分のピニールハウスを増設し、障害者96人の雇用を目指す。

同社の和田一紀社長(42)は「障害者のハンディキャップを少しでもサポートして、充実した人生を送ってほしい」と話している。